

***12吋望遠鏡の1981年4月～1992年10月の観測野帳発見**

12吋望遠鏡と言っても、この望遠鏡を特定できる人はすでに現在の国立天文台にはいないだろう。現在は東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センターの敷地内にあるドームに現存している望遠鏡である。このドームは比較的新しく昭和26年(1951年)3月に建設されている。三鷹キャンパスに現存しているドームとしては最も新しいものである(写真1)。通常は30cmドームと呼ばれていた。



写真1 30cm望遠鏡ドーム

このドームには当初、30cmクック・トロートン写真天図写真儀(口径30cm、焦点距離351cm、1934年購入)が設置されていた(写真2、3)。



写真2 クック望遠鏡



写真3 クック望遠鏡

1957年12月には、このクック望遠鏡にマルコビッチカメラが設置され月の位置観測が行われた（写真4、5）。



写真4 マルコビッチと宮地政司

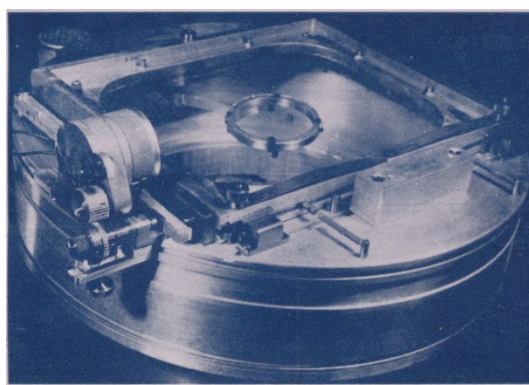


写真5 マルコビッチカメラ

30cmクック・トロートン写真天図写真儀の架台は1966年に更新されニコン製の赤道儀になっている。30cm望遠鏡ドームと言えはこの望遠鏡であったが、この観測野帳に書かれた観測は1981年からのもので、使われた望遠鏡はこの30cmクック・トロートン望遠鏡ではない。

佐藤英男氏が、このドームの赤道儀架台に30cm反射望遠鏡を載せ替えてフォトンカウンターによる変光星の観測を始めたのである。佐藤英男氏の30cm反射望遠鏡が写真6である。

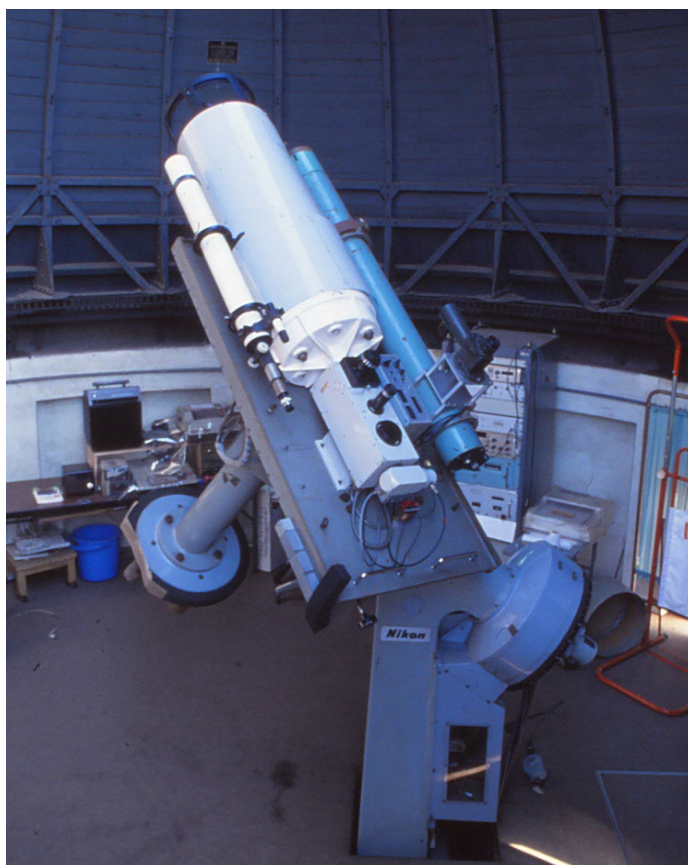


写真6 佐藤英男氏が使った30cm屈折望遠鏡

今回発見された観測野帳(写真 7)は 1981 年 4 月から 1992 年 10 月のもので、主たる観測者は佐藤英男氏である。一緒に観測した人として佐藤英男氏の他に Ts、Ns の記述がある。Ts は恐らく土屋淳氏、Ns は西野洋平氏であろう。

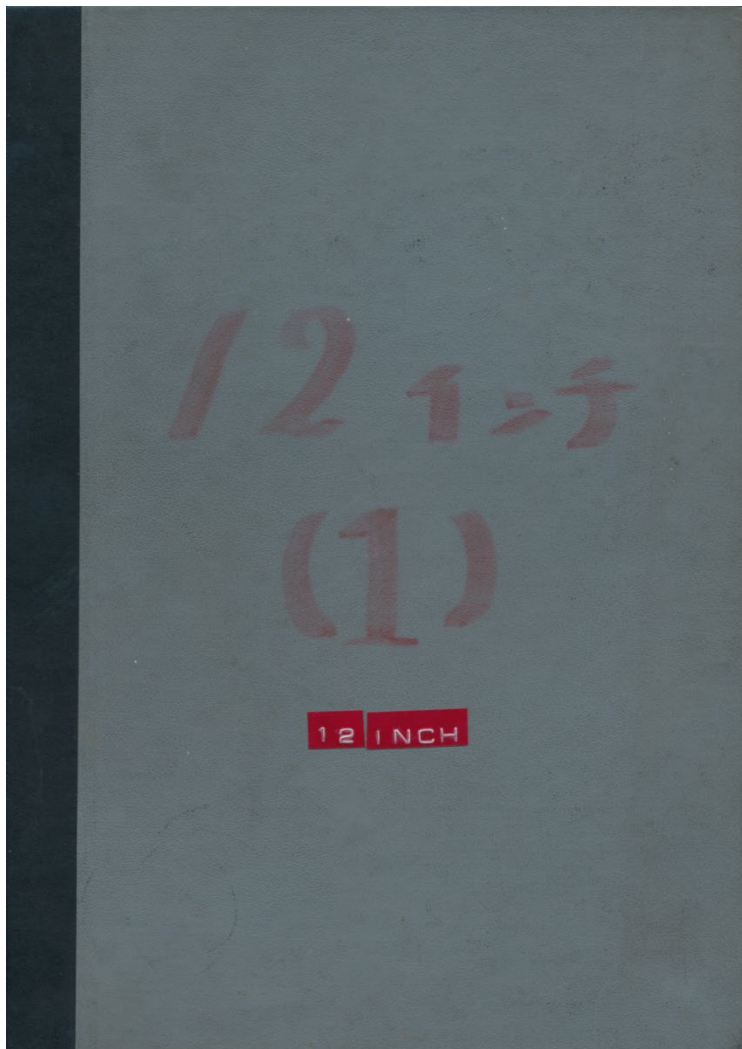


写真 7 30cm 望遠鏡の観測野帳

この観測野帳が発見されたのは 65cm 屈折望遠鏡ドーム 1 階の倉庫に使っている元暗室である。なぜ佐藤英男氏の観測野帳 1 冊のみが単独で存在していたのは不思議である。65cm 屈折望遠鏡ドームは 2000 年頃片付けられて国立天文台歴史館に衣替えしているが、その片付けをやったメンバーに佐藤英男氏もいたというから、ますます不思議である。記述されている内容については、ご本人も健在だし、それほど歴史的なものではないので触れないことにする。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp